

〈彙報〉

平成二年度 国文学科活動報告

能楽鑑賞と難波宮跡見学

日時 平成二年六月二十五日(月)

午前十時から午後二時

場所 大槻能楽学堂(大阪府中央区上町A番七号)

参加者 短期大学一、二年生全員四一八名と専任教員六名と助

手二名 計四二六名

演目 解説

能「葵上」

古式

六条御息所の霊	大槻	文蔵
青女房	上田	拓司
粹の巫女	武富	康之
横川の小聖	中村彌三郎	
延臣	山本	清
大臣の下人	岩崎	狂雲
笛	野口	浩和
小鼓	成田	達志
大鼓	山本	哲也

泉 嘉夫

狂言「附子」

主	松本	薫
太郎冠者	茂山	正義
次郎冠者	茂山千三郎	
後見	岩崎	狂雲
		(敬称略)
地謡	越知	芳彦
地謡	桑野	剛年
地謡	山本	正人
地謡	赤松	禎友
地謡	斎藤	信隆
地謡	阿部	信之
後見	増田	登
後見	山中	貴博
後見	水田	博
太鼓	中田	弘美

以上の要領で平成二年度の芸能鑑賞を実施。学生には事前にも大槻能楽学堂発行の学生鑑賞能のパンフレット、および研究室からも解釈付きの「葵上」の本文等を配布し、またクラスごとにビデオなどを用い、能や当該演目についての理解を深めた。その効果があつて、学生は例年以上に熱心に観ていた。演者の都合で狂言「附子」が先になり、リラククスしたあとで、「葵上」を観たのも学生にはよかつたようである。

観能の後、史跡「難波宮跡」を見学。北谷先生作成のプリントによってその解説を聞く。風が強く、暑い日であったが、国文学科らしい充実した行事となった。

この数年は歌舞伎、文楽、能の順で芸能鑑賞を行っているが、古典芸能以外の鑑賞があつてよいかもしれない。

文学遺跡めぐり

日時 平成二年十月十一日(木)

行程 長堀駐車場——比叡山延暦寺根本中堂——横川

隔年に行っている奈良か京都かへの文学遺跡めぐりは、平成二年度は京都方面の番です。十月十一日(木)に比叡山延暦寺諸堂めぐりに行きました。

長堀橋駐車場からバス八台で、一路京都へ。比叡山ドライブウェイを経て、根本中堂に参詣。写真撮影。そして、延暦寺会館で昼食。その後、大講堂、戒壇院、阿弥陀堂などに各自で自由参詣。

午後は、奥比叡ドライブウェイで、釈迦堂など西塔地域に参詣。釈迦堂の近くには、親鸞聖人の修行なされた跡と推定されるところに立札がありました。その後、バスで横川中堂に参詣し、写真撮影。自由参詣。元三大師堂や恵心堂まで、歩みを運んだ人もたくさんいました。

今回の計画で、心配したのは、天候の問題でした。雨のときの対応のため、柿谷先生には、京都にとどまっていたいただき、連絡をしながら予定コースをとりました。幸いにも天候にめぐまれました。もう一つ心配になったのは、根本中堂と横川中堂で、法話をしていたとき、宗門の学生にふさわしい態度で聴聞してくれるだろうかということでした。それも杞憂におわ

り、うれしく思いました。

感想文を読みますと、「一つの建物だけと想っていたのに、たくさんのお寺なので、びっくりした。」とか、「根本中堂、横川中堂で足がしびれた。」とか、「期待していた比叡山からのパノラマ的な琵琶湖の景色が、バスがはやく通りすぎて、ゆっくり眺められなかった。」とかの感想が目につきました。

延暦寺は伝教大師が創建され、後の鎌倉仏教の祖師たち（法然・親鸞・日蓮・栄西・道元）が修行なさった聖地です。

秋たけなわのころに、簡単には行きにくい奥比叡で青春時代の一日を先生や友人とすごしたという思い出は、みなさんの心に深く残ることと思います。（池田）

国文学科講演会

日時 平成二年十一月七日（水） 第五・六時限

対象 国文学科一・二年生全員

会場 南港学舎講堂

講師 大阪大学名誉教授・甲南女子大学名誉教授

犬養 孝先生

演題 「萬葉のころ」

さほど広くはない講堂が、一段と狭いものに思われた。萬葉学界の権威犬養孝先生を講師にお招きしての講演会は、学生諸君の先生への憧れと期待を集めて開かれ、先生の御講演が相愛乙女の心を魅了した。萬葉集を学ぶについて、時代を作歌の時代にもどすこと、歌の作られた風土に立つてみることに、歌を心の音楽として味わうこと、の三つを強調されるところから始まったお話は、「信濃なる千曲の川の細石も君し踏みては玉と拾はむ」（巻十四―三四〇〇）の歌の朗詠をお聴きするにいたって最高潮に達した。この歌に関わっての先生の思い出話と、犬養先生独特の節まわしに感動して涙を流す学生も少なくなかった。お聞きするところによると先生は明治四十年のお生れであり、我々国文学科教員の誰れもが何らかの形で学恩を忝なくしてきている。快く御来学いただいた先生に感謝申しあげ、益々御壮健の程を念じあげている。